一枚の手紙から

昨日ポスティングに行った職員から報告がありました。ある家を訪れたときに、郵便受けの中に母親から担任に向けた手紙が入っていたとのこと。担任から学年主任へ、学年主任から教頭校長へと報告がなされ、情報はすぐに共有されました。

手紙は一年生の保護者の方からでした。我が子を心配する気もちがＡ４用紙に切々と語られていました。無理もありません。不安と期待の入り交じった気もちで入学式だけは迎えたものの、それからはずっと休校。入学式の時には自分なりの決心で中学の門をくぐったのでしょうが、その決心も長い家庭生活でやや萎えてきたのかもしれません。休校は、北中の生活をまだ知らない新入生にとって、特に大きな影響を与えていることがわかりました。

この手紙により、休校が阻んでいた保護者の方との情報交流ができたことを大変うれしく思いました。本来ならば、家庭と学校の関係が年度当初から密になって、新入生たちが安心して北中学校に来られるように配慮するはずでした。生徒たちに会えない今、この手紙のお陰で生徒に寄り添うきっかけができたのはうれしいことでした。

このメッセージは生徒向けに書くつもりでいましたが、今日は保護者の皆様に向けて書いているみたいになってしまいましたね。現在、生徒に寄り添うことができるのは保護者や家族の皆さんだけです。心配してみえること悩んでみえることがあったら、どうぞお気軽に学校に連絡してください。

我々職員は、５月７日の生徒たちとの再会を信じて、学校生活が順調に進むように準備することしかできません。その一方で、「生徒たちはどうしているのかな、元気かな」と案じています。だからこそ、保護者の皆様からの情報が本当にありがたいのです。

２、３年生のみなさん、本当なら日常生活の指導や対面式、部活動見学などを通して、新入生を優しく支えてくれるはずでした。しかし、今はそれができません。

そこで提案があるのですが、北中の生活をまだ知らない新入生に向けて、先輩としてのメッセージを学校に届けてくれませんか。ＦＡＸでも手紙でも結構ですから。ＨＰで紹介しようと思います。先輩の励ましで、一年生の後輩たちは安心すると思いますよ。もちろん個人情報は抜いてくださいね。待っています。

（四月二十一日　記）